

—収蔵資料紹介—

写真「明治11(1878)年千島アイヌ」

(受入番号: H20-50-1)



この写真は大きさ 24.0 cm×31.5 cm (台紙込) の鶏卵紙写真で、1878(明治 11)年に函館の写真師井田倭吉(1845-1911)が千島列島最北端のシュムシュ島で撮影したものです。台紙表面上部には「千島国占守郡第一島モヨロッパ住アレキサンドル外七名ノ像」、裏面中央部には「Kaitakushi Agents and Natives of Kurile」の記入があり、開拓使や函館県のロシア語通訳であった小島倉太郎(1860-1895)の遺品の一つとして、2009(平成 21)年に遺族から寄贈されました。

千島列島は 1875(明治 8)年の千島樺太交換条約で日本領になりましたが、同条約附録第 4 条には、アイヌをはじめとした先住民族は 3 年以内に国籍を選択し、国籍に伴った場所に居住することが盛り込まれます。千島列島北部に居住していた千島アイヌにもその旨通告され、開拓使が国籍の確認のためにシュムシュ島を訪れた際に撮影されたのがこの写真なのです。この時の詳しい経緯などについては、開拓使八等属井深基(1849-1924、写真左から 3 人目)による「得撫外式郡巡視復命書」(北海道立文書館所蔵『明治十一年千島巡視書類』(A 4/307)合綴)や、巡航に同行した英国人地震学者 John MILNE(1850-1913、写真右から一人目)による「Notes on the Koro-poku-guru or Pit-dwellers of Yezo and the Kurile Islands」(“Transactions of the Asiatic Society of Japan” vol. 10, pp. 187-198, 1882 所収)などに記述があります。

また 1878(明治 11)年 9 月 10 日付函館新聞 1 面によると、自費で開拓使に同行した井田が「靄霧」のため「僅かの晴天の間に少々のみ」しか撮影できなかったとありますが、北海道大学附属図書館には当資料と同種のものを含め、この時に撮影された 4 種の写真が残されています。

千島アイヌは、条約締結以前はロシア文化の影響を強く受け、日本国籍となつてからは同化政策により日本の生活文化が強制されます。写真には、開拓使からの給与物資である米や塩等を背景に 8 人の千島アイヌが写され、洋風のシャツやズボンなどロシア風の服装の中にも、女兒(左から 5・6 人目)の腰のクックルケシ(鯨骨製帯留)や男児(右から 5 人目)の腰のエペルニキ(女性用短刀)、タンネチオカブ(膝上までの漁撈用海獣皮製長靴)など、千島アイヌの伝統的な民具が受け継がれている様子が見受けられます。これらの民具は、1899(明治 32)年に調査を行った鳥居龍蔵(1870-1953)が「還元的土俗」として聞き取りした内容と符合し、この写真は往時の千島アイヌ独特の文化を偲ばせる貴重なものといえるでしょう。

(大矢 京右)

井田倭吉
【函館市中央図書館所蔵】

— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※平成 26 年 3 月 31 日現在

分類	件数	点数
博物館史	300 件	1,500 点
地質鉱物	20 件	2,000 点
植物	10,100 件	10,400 点
動物	7,900 件	21,700 点
考古	2,700 件	571,500 点
歴史	4,900 件	21,700 点
民俗	6,500 件	32,900 点
民族	6,680 件	8,300 点
美術工芸	3,000 件	4,000 点
合計	42,100 件	674,000 点

※一括は1件1点と計算しています。

※100 以上は2桁の端数を切り下げ表示し、100 未満は1桁の端数を切り下げ表示しているため、実際の数値より少なく表示しています。

平成 26 年 新収蔵資料

※平成 26 年 1 月 1 日～12 月 31 日登録分

- 寄贈 382 件 5,012 点
 (「函館太洋倶楽部関係資料」他)
- 移管 19 件 19 点
 (「箱館御役所棟札」他)

その他寄附等

※平成 26 年 1 月 1 日～12 月 31 日受入分

「れんが造電信電話地下マンホール設備」修繕

【株式会社つうけん道南事業部函館事業所 実施】



山本真也教育長から渡邊紀夫所長に感謝状贈呈

資料燻蒸

- 平成 26 年 9 月 6 日 (土)～8 日 (月)
 (博物館史・自然・歴史・民俗・美術資料)
- 平成 26 年 11 月 6 日 (木)～8 日 (土)
 (民族資料)

博物館実習生受入

- 平成 26 年 8 月 29 日 (金)～9 月 20 日 (土)
 北海道教育大学函館校 5 名
 北海道大学 2 名

— 普及 (展覧会) —

平成 26 年度展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日	4/1～ 6/1		6/3～ 14	6/15～ 8/4	8/5～ 31	9/2～ 19	9/20～ 11/3	11/5～ 16		11/18～ 3/31			
ロビー	前年度ロビー展		函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科		函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科		函館博物館史コーナー 担当:佐藤・保科						
			南北海道博物館情報コーナー 担当:小林・大矢		南北海道博物館情報コーナー 担当:小林・大矢		南北海道博物館情報コーナー 担当:小林・大矢						
第1展示室			特別展 「五稜郭築造と箱館戦争」 担当:保科・奥野		自然分野収蔵資料展 「はこはコレクション」 担当:佐藤		自然分野収蔵資料展 「当館博物館コレクションー海の生物と地質鉱物編ー」 担当:佐藤						
第2展示室	前年度収蔵資料展		美術分野収蔵資料展 「アイヌ絵の世界」 担当:保科・大矢		歴史分野収蔵資料展 「箱館戦争」 担当:保科		企画展 「新収蔵資料展」 担当:大矢		美術分野収蔵資料展 「謎の笑うアイヌ絵」 担当:奥野			考古分野収蔵資料展 「サイベ沢遺跡」 担当:小林	
第3展示室			ミニ企画展 「本当はスゴイ!サイベ沢遺跡」 担当:小林		ミニ企画展 「本当はスゴイ!サイベ沢遺跡」 担当:小林		歴史・民俗分野収蔵資料展 「江戸時代から昭和まで」 担当:保科						
			歴史・民俗分野収蔵資料展 「江戸時代から昭和まで」 担当:保科		情報ブース展示(担当:保科・未来大学)								

特別展



名称	五稜郭築造と箱館戦争
期間	平成26年6月15日(日)～8月31日(日)
開館日数	78日間中67日
後援・協力	北海道博物館協会 他計6機関
出品協力	函館市中央図書館
出品資料	五稜郭初度設計図 他計280点
観覧者数	4,167名
関連事業	展示解説セミナー「五稜郭探検隊2014」
担当	保科・奥野



五稜郭を探検だ！

共催・協力事業

※平成26年1月1日～12月31日開催分

- 協力・後援 2事業
(NPO 法人道南マウコピリカの会 他)
- 資料貸出 9事業 467点貸出
(公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 他)

資料利用(掲載等)許可

※平成26年1月1日～12月31日許可分

- 博物館史資料(「水産陳列場目録」等) 2件
- 考古資料(「シヤチ形土製品」等) 12件
- 歴史資料(「永寧寺碑記」等) 31件
- 民俗資料(「三平皿」等) 3件
- 民族資料(「椎久コレクション」等) 14件
- 美術資料(「花鳥屏風」等) 7件

平成27年度特別展開催予告

※展覧会名称および開催期間はいずれも予定

- 特別展「千島樺太交換条約とアイヌ」(7～8月)
千島樺太交換条約締結140年を記念して、千島樺太交換条約締結にともなう千島巡航で収集された資料や、条約締結に伴い強制的に移住させられた樺太アイヌ・千島アイヌの資料を展示・紹介します。



— 普及 (講座) —

平成26年度 講座開催実績

【通年講座】

No.	講座名	開催期間	講師	参加/定員
1	古文書調査	4月9日～10月23日 年20回	保科	6 / 6
2	自然観察入門講座 —自然の物知り博士をめざそう—	4月13日～3月1日 年10回	佐藤	21 / 20
3	四季の星空観測講座 —函館・四季の夜空観測—	5月9日～1月30日 年4回	佐藤	12 / 20

計 39 / 46名

【単講座】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	宇宙と天体シリーズ 「春の星座を見てみよう」	5月23日	佐藤	18 / 15
2	美術鑑賞会 「蠣崎波響」	5月24日	外部講師	10 / 10
3	「博物館旧一号館公開」	5月25日	-	236 / -
4	親子で学ぶ 「不思議な石 石灰石」	6月21日	佐藤	17 / 15
5	地域の身近な自然を調べる 「浜辺の漂着物を調べよう」	6月22日	佐藤	2 / 15
6	「体験!日本画教室」	7月6日・13日・20日	外部講師	6 / 10
7	宇宙と天体シリーズ 「夏の星座を見てみよう」	7月18日	佐藤	13 / 16
8	親子で作る 「ベタベタアート」	7月19日	奥野	13 / 15
9	夏休み自由研究 「五稜郭探検隊2014」(1)	7月25日	保科	10 / 20

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
10	親子でクッキング! 「アイヌの伝統料理」	7月26日	外部講師 大矢	9 / 16
11	夏休み自由研究 「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月29日	外部講師 佐藤	29 / 40
12	わくわく科学教室 「ドライアイスで遊ぼう」	7月30日	佐藤	20 / 20
13	わくわく科学教室 親子で「なまこ砂を作ろう」	8月1日	外部講師 佐藤	15 / 15
14	夏休み自由研究 「黒曜石で矢じりを作ろう」	8月7日	外部講師 小林	15 / 15
15	夏休み自由研究 「五稜郭探検隊2014」(2)	8月8日	保科	10 / 20
16	やさしく学ぶ 「北海道南部のアイヌ語」	8月24日	外部講師 大矢	12 / 15
17	わくわく科学教室 親子で学ぶ「手軽な魚の解剖学」	10月11日	佐藤	4 / 15
18	学芸員こぼれ話2 「函館にくらしたアイヌの人々」	10月19日	大矢	10 / -
19	わくわく科学教室 「もしも原子が見えたなら」	1月17日	佐藤	2 / 15

計 451 / 287名

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	展示解説セミナー 特別展「五稜郭築造と箱館戦争」	6月28日(土)～8月23日 (土)各週土曜日	保科・奥野	73 / -
2	展示解説セミナー 企画展「新収蔵資料展」	9月20日	博物館実習生	9 / 30

計 82 / 30名

出前講座等

※平成26年1月1日～12月31日開催

- 自然分野（はこだて国際科学祭ほか） 2件
- 歴史分野（五稜郭などに関するもの） 4件
- 民族分野（アイヌ民族などに関するもの） 3件

協力機関等

公立はこだて未来大学、安積徹、函館市教育委員会、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、JR北海道函館運輸所、富士シリシア(株)、今金町教育委員会(順不同・敬称略)

一 調査・研究 一

調査事業

- 博物館資料調査研究事業（大矢）
- 梁川剛一資料整備（奥野）
- 次年度展覧会調査（大矢）

研究論文・一般著述等

※平成26年1月1日～12月31日掲載分

- 保科智治2014「資料館・風景・街—北海道上ノ国町・江差町の資料館—」『日本歴史』788 pp.4-5 吉川弘文館;東京都
- 大矢京右2014「函館観光とアイヌ文化」『北海道南部のアイヌ文化を探る』 pp.16-26 函館アイヌ文化研究会;函館市
- 大矢京右2014「北海道南部のアイヌ文化を探る」『北海道民族学』10 pp.145-149 北海道民族学会;札幌市
- 奥野進2014「書評 及川邦廣編著『福士成豊、田本研三、「御雇外国人」が記録した北海道近代化の幕明け』」『北海道・東北史研究2013』 pp.30-31 北海道出版企画センター;札幌市
- 佐藤理夫ほか2014「函館市古武井熔鋳炉跡地で発見されたニホンジネズミ *Crocidura dsinezumi* について」『市立函館博物館研究紀要』24 pp.39-42 市立函館博物館;函館市
- 保科智治2014「二つの故郷を持つ商人」『はこだてと外国人居留地 人物編—官から商人の街へ—』 p.8 はこだて外国人居留地研究会;函館市
- 保科智治2014「五稜郭築造150年記念特別展「五稜郭築造と箱館戦争」の紹介とささやかな違和感」2014年7月27日付北海道新聞(朝刊)
- 保科智治ほか編2014『函館の建物と街並みの変遷—都市再生のヒストリー—』五稜郭タワー株式会社;函館市

資料調査・取材対応

※平成26年1月1日～12月31日対応分

- 博物館史資料（「標本ケース」） 1件
- 自然資料（「ハリセンボン」等） 1件
- 考古資料（「狩猟文土器」等） 9件
- 歴史資料（「堤商会事業一覧」等） 2件
- 民俗資料（「天草採り」等） 1件
- 民族資料（「潤瀉コレクション」等） 9件
- 美術資料（「千島國海獺採之図」等） 4件

印刷物発行

※平成26年1月1日～12月31日発行分

- 市立函館博物館2014『市立函館博物館研究紀要』24
※平成26年3月31日発行 40頁
- 市立函館博物館2014『五稜郭築造と箱館戦争』
※平成26年6月15日発行 70頁

平成26年度職員構成等

館長

阿部司 ————— 博物館協議会
| (委員11名)

管理担当

学芸担当

金木照之(主査)

佐藤理夫(主査、自然・博物館史)

輪島佳代子

奥野進(主査、美術・歴史)

余川智子

小林貢(考古)

三浦真人

保科智治(歴史・民俗)

小林政人(臨時)

大矢京右(民族・民俗)

山本泰子(嘱託)

SARANIP—サラニップ—No. 54

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

—誌名SARANIP(サラニップ)—

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。